

遺跡へ行こう



その3 戦後初の本格発掘！！ よみがえる弥生の農村風景 とる 登呂遺跡



カイトとリュウさんは、大阪府立弥生文化博物館の展示品から飛び出した、博物館のキャラクター「館キャラ」です。本冊子では「弥生遺跡」や各地の「博物館」を訪ねて日本中を駆けめぐります。二匹？の活躍にご期待ください！



本冊子は、文化庁からの補助金を受け、日本全国の代表的な弥生遺跡を紹介するために制作しました。



※撮影時では毎週土日

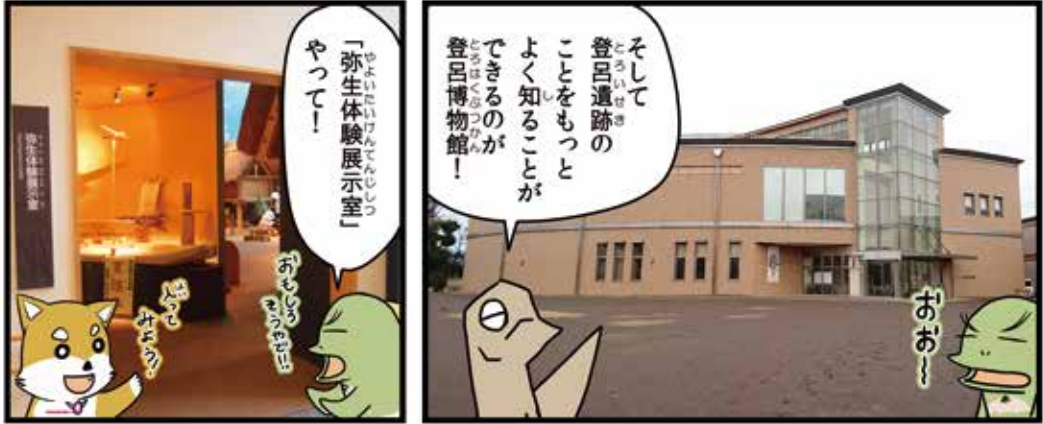


いまでこそ「日本」というひとつの国にまとまっている日本列島ですが、弥生時代にはたくさんのクニがそれぞれの地域で独特な文化を築いていました。

遺跡へ行こう

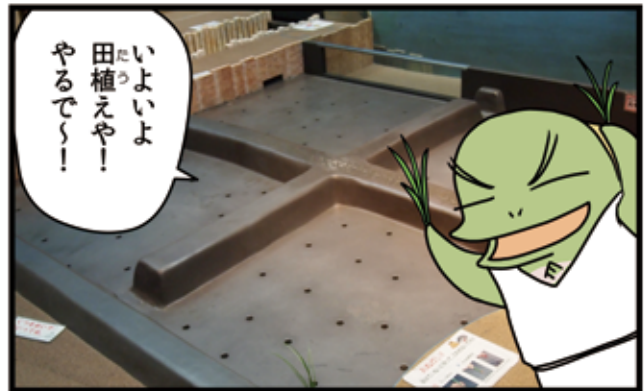
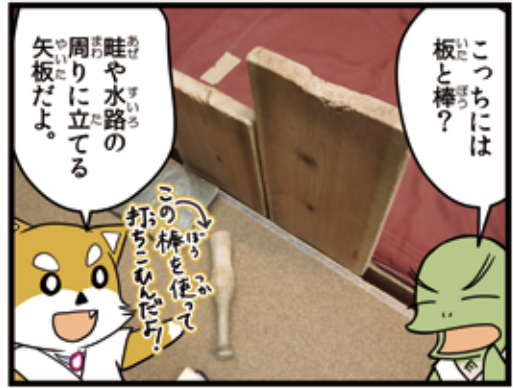
戦後初の本格発掘!!
よみがえる弥生の農村風景

登呂遺跡



本冊子で紹介する遺跡を訪れば、出土した遺構や遺物はもちろん、遺跡の周りの自然や地形環境、気候のほか、遺跡の立地など、自分たちの地域とは異なる部分に気が付くはず。

遺跡へ行こう



島国ならではの多様な風土が生み出した、特色豊かな弥生文化。それはいまの日本文化の源流となるものです。時には、悠久の時を超え、遙か先人たちの叡智に想いを馳せてみませんか。

こんにちは、オイラは登呂遺跡イメー
ジキャラクターのトロペーだよ。
ここからは、登呂遺跡に関することを
オイラが紹介していくよ。



トロペー

登呂遺跡は、昭和一八年の太平洋戦争
中に発見され、戦後の昭和二二年から
二五年まで、発掘調査が行われたんだよ。
発掘調査では、住居群と水田区域がは
じめて一緒に見つかったんだ。弥生時代
の米づくりを中心とした農村の全体の姿
がわかる遺跡として、昭和二七年には国
の特別史跡に指定されたよ。とても貴重
な遺跡なんだ。

遺跡は、各調査の後、整備が行われ、
住居や高床倉庫が復元されて、公園とし
ても利用されるようになったんだ。この
復元整備も、弥生時代の集落イメージと
して全国に影響を与えたんだよ。

そして、昭和五〇年代頃から全国的に
も弥生時代の遺跡の発掘調査が進み、各
地の弥生時代のムラの様子がわかってき
たんだ。このような弥生時代の調査や研
究が進む中、登呂遺跡を最新の技術を
使ってもう一度発掘し、昭和の発掘調査
で分からなかったことを確かめていくこ
とになったんだよ。この発掘調査は平成
一一年から一五年まで行われて、「平成
の再発掘調査」と呼んでいるよ。

再発掘調査によって、登呂遺跡は大洪
水による被害を二回も受けていたこと



▲昭和18年の調査の様子

や、住居や倉庫の他に祭殿のような特別
な建物があったなど、新たなことも分
かってきたよ。

再発掘調査の後に、調査の結果や新し
い発見を反映させた再整備が行われ、現
在の「登呂遺跡公園」の姿が完成したん
だよ。

発見された弥生の水田

登呂遺跡の発掘では、多数の木製の杭
や矢板で頑丈に補強された水路や畦せきの存
在、広大な水田域の広さから、大規模で
高度な土木工事を行った二千年前の日本
人の技術の高さが証明されたんだ。

水田跡は、住居、倉庫などが建ち並ぶ
集落の南側に、水路をはさんで広がって
いたんだ。

幅一mほどの畔で五〇×三五m程度の
大きさに区画され、さらにその中を、幅
の狭い畔で小さな区画に細かく分けられ
ていたよ。これは、水田内にうまく水を
回したり、水の深さを一定に保つための
工夫と考えられているんだ。

水田で使う水は、水路内の堰せきや暗渠あんきょ
などの設備を使って、各田内に引き入れ
ていたよ。ただ、水源すいげんの場所や様



▲水を引き入れるための堰せき

子などは不明なままなんだ。

また、登呂遺跡は、大きく二回、大洪
水の被害を受けてる。水田の畔は、初め
は土を盛り上げて固めただけのつくり
だったけど、一回目の洪水の後、多数の
木杭で補強された部分があるよ。戦中戦
後に調査された堅固な木杭列はこの洪水
後のものだったんだね。

ちなみに、二回目の大洪水の後も水田
は復旧されたけど、集落は他の場所に移
動していったんだ。

そうだ、登呂ムラの人々はどんなお米
を育てていたんだろう？気になるよね！

戦後初の本格発掘!!

よみがえる弥生の農村風景

登呂遺跡



▲登呂遺跡の復元模型

出土した炭化米をDNA分析したところ、温帯ジャポニカ、熱帯ジャポニカ、雑種など、品種にはバラつきがあることがわかったんだ。そのような水田では、稲穂の高さや色が異なる、さまざま種類の米が栽培されていたみたいだね。

弥生時代の米の収穫用具としては、西日本を中心として石庖丁があるよね。登呂遺跡では石庖丁は出土していないけど、石を薄く割ってつくった道具があった、これを使って稲穂を摘みとっていた



水田に入って作業するための履物であると考えられているんだ。



▲又鉞

ようだよ。

登呂遺跡の水田はとても広いから、まわりの集落の人達が力を合わせて、稲作をしていたんだろうね。

登呂ムラと木の生活

水田を拓くには土木工事が必要で、鋤とか鉞が使われるよ。登呂遺跡では作業によって農具を使い分けていたようで、堅いカシの木を削り出して、鋤のほか、平鉞や横鉞、いくつもの刃を持った又鉞など、いろいろな種類の農具があるよ。



登呂遺跡からは、農具のほかにもさまざまな木製品が出土しているんだ。

大小の槽形木製品や片口形木製品、つまみのある蓋や大形の盤、食へ物を取り分ける杓子も作られ、これらは鉄の刃物で丁寧削り出して作られているよ。

登呂遺跡では、高杯も木で作られているよ。とても細かい木目のスギ材で、杯部と脚と台に三分割して作られていて、



▲田下駄

各パーツは「杓差し」という技術で組み合わせてあったんだ。台部の縁は、きれいに円く、とっても薄いんだ。まるで現代の機械で削ったみたい。すごい加工技術だよ。



▲高杯



▲槽形木器



登呂遺跡では、琴が三点出土しているんだ。
一点は板状の琴
なんだけど、他の

大切な容器は、どれも2m以上の大きなスギ材から切り出した部材を丁寧に加工して作られているよ。
また、折りやマツリの道具もたくさん見つかった。剣形木製品やその鞘、舟形木製品も出土しているよ。特に注目して欲しいのは、なんといっても琴だね!

▲琴

二点は共鳴箱のついた槽状の琴だよ。一点は天板だけの作りかけだけど、もう一点は天板と側板が同じ位置から出土したもので、細かい細工や木製の釘で組み合わせていたようなんだ。
ほかに、登呂遺跡で調査された建物の柱穴の底には、柱が沈まないようにするための「礎板」がたくさん見つかった。やわらかい地盤に建物を建てるための工夫だね。水田の水路を補強している杭列の中には、建物の柱材や高床倉庫の梯子、ネズミ返しなどを再加工してリサイクルしたのも多く見られるよ。

そのほかの出土資料

登呂遺跡では、弥生時代を代表する銅鐸のような派手なものも見つかった。いけれど、木でできたもの以外にもいろいろなものが見つかったよ。
壺や甕などの土器や、石器などの一般的なものの他にも、例えば、銅の腕輪(銅環)やガラス玉などの装飾品、占いに使った鹿骨製の卜骨や、ミニチュア土器など「マツリ」に使ったと思われるものがあるんだ。あと、登呂ムラの人たちが食べていた動物の骨や植物の種なんか

も、少しずつだけ見つかったっているんだ。登呂遺跡という、みんな「水田」「稲作」「お米」という印象が強いと思うけれど、お米以外のものも食べていたし、着飾ったり、祈りを捧げたり、稲作だけじゃない、多様な豊かな生活をしていたことが分かるよね。
また、登呂遺跡からは弓や石の鏃など武器となりそうなものが少しだけ見つかっているけど、これらは動物を獲るために使ったものと考えられるし、何よりも、同じ時代の他の遺跡にある「環濠」などの防御施設が登呂遺跡にはないから、他のムラとの争いはなかったみたいなんだ。それでも、剣の形をした木製品や、鹿の角でできた把頭が見つかった



▲装飾品(銅環と小銅環)



▲登呂遺跡から出土した資料



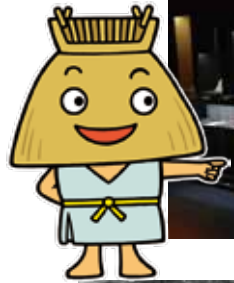
るから、マツリの中で模擬的な戦いはしていたかもしれないね。
家の大きさもあまり変わらなくて、ムラのなかにも大きな身分の差がなかったみたいだし、稲作を中心とした平和で豊かなムラだったかもしれないね。



▲常設展示室

登呂メモリー

これまで紹介した出土品は、登呂博物館の展示室で見られるんだけど、最後にもう一つ紹介したいところがあるんだ。それは、常設展示室の一番最後にある「登呂メモリー」という部屋。ここは、登呂遺跡が見つかったからこれまでの歴史を展示しているよ。登呂遺跡の発掘は、日本が戦争に負けて、毎日の生活が苦しい中で行われたんだ。たくさんの方が夢と希望を持って力いっぱい発掘をがんばったんだ。なぜなら、それは新しく生まれた平和



▲登呂メモリー

な日本で、新しい歴史観を土の中から掘り起こす作業だったからなんだ。遺構やモノが発見されたことも、もちろん大事だけれど、登呂遺跡には発掘作業に携わった人たちが、当時の日本人みんなの努力や想いが詰まっているんだ。だからこそみんなに知られ、愛される特別な場所になったんだよ。どう？登呂遺跡に来てみたくなかったかな？登呂遺跡では住居の他に水田も



▲戦後すぐの発掘調査のようす



広く復元していて、今でも田植えや稲刈りなどの稲作体験ができるよ。登呂ムラの弥生人たちが暮らした風景をぜひ見に来てね。晴れた日には、富士山もよく見えるよ。

静岡市立登呂博物館

住所：〒422-8033 静岡市駿河区登呂 5-10-5
電話：054-285-0476
開館時間：9時～16時30分
休館日：月曜日、祝日、振替休日、年末年始
<http://www.shizuoka-toromuseum.jp/>



【交通アクセス】
（バス）JR静岡駅南口バスターミナル 22番線より『登呂遺跡』行き、終点下車 / 『東大谷』行き・『久能山下』行き、『登呂入口』下車
（タクシー）JR静岡駅南口より、所要時間約10分
（自動車）東名高速・静岡インターを出て右折（北進）SBS通りを東進し、石田街道との交差点を右折（南進）して東名高速ガード下の標示に従って有料駐車場へ / 長門方面より 国道191号を下関方面へ→国道191号沿いの看板を右折→ミュージアムが右手側に見えます。

平成二七年度文化庁
地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
「カイトとリュウさんの遺跡へ行こう」 その3
戦後初の本格発掘!!
よみがえる弥生の農村風景 登呂遺跡
企画・編集：館キヤラ連携プロジェクト実行委員会
大阪府立弥生文化博物館
マンガ：宮野ニケ
テキスト：静岡市立登呂博物館
発行日：平成二八年三月十一日
印刷所：株式会社中山弘文堂印刷所